

## 鳩山法相「冤罪でない発言」の意図は、 冤罪やりたい放題の体制づくりか!?

鳩山法相の「冤罪でない発言」が波紋をよび、事実上の発言撤回と謝罪がされた。この発言は、2月13日検察長官会同における訓示の後、鳩山法相がマスコミに「冤罪を志布志事件にまで適応すると、無罪は全部冤罪になってしまうのではないか」と言ったというものである。

志布志事件とは、鹿児島県議選買収事件のことで、警察権力がありもしない事件をつくり上げた、いわゆるデッチ上げ事件である。このデッチ上げの構図は、JR浦和電車区事件、そして蒲郡駅事件と全く同一である。

国家権力は、平和勢力の撲滅を目的に、冤罪を明らかにすることなく、戦前のように冤罪を増やしていきたいのだろうか。いずれにせよ、「冤罪」という言葉を死語にしたいことはハッキリしている。

私たちは、冤罪に苦しむ人たちと連帯して闘う!

**冤罪発言**

鳩山法相「冤罪でない発言」の意図は、冤罪やりたい放題の体制づくりか!?

鳩山法相の見識を疑う

東京新聞2月15日

法廷外で冤罪被害を再び救うか、という発言は、法相としての適格性を疑わせる。権力も財力もなく、徒手空拳で警察、検察と争わなければならない被疑者、被告人の立場がわかっていない。

鳩山法相は「冤罪でない」と発言したが、これは、何の力も持たない被疑者、被告人に無実と立証する責任を転嫁するよふ発言か、急ぎ過ぎてしまった。

それらをきちんと学習せず、思いこみで、反響を聞いて釈明したが、一度口から出た言葉は消えない。個人の発言でも最高責任者の言ったことは重く影響を持つ。

自らの立場、発言のみならず影響を十分考えずに言葉を吐いた発言を繰り返す鳩山法相は、法相としての適格性に疑問があるばかりか、政治家としての見識も問われる。

法廷外で冤罪被害を再び救うか、という発言は、法相としての適格性を疑わせる。権力も財力もなく、徒手空拳で警察、検察と争わなければならない被疑者、被告人の立場がわかっていない。

鳩山法相は「冤罪でない」と発言したが、これは、何の力も持たない被疑者、被告人に無実と立証する責任を転嫁するよふ発言か、急ぎ過ぎてしまった。

それらをきちんと学習せず、思いこみで、反響を聞いて釈明したが、一度口から出た言葉は消えない。個人の発言でも最高責任者の言ったことは重く影響を持つ。

自らの立場、発言のみならず影響を十分考えずに言葉を吐いた発言を繰り返す鳩山法相は、法相としての適格性に疑問があるばかりか、政治家としての見識も問われる。

浦和電車区事件、蒲郡駅事件も  
冤罪にされては困るのが本音

国家にしかできない犯罪、それは戦争と冤罪だ!